かたくり

第７号

2011 年
1 月 20 日
福島大学
行政政策学類
塩谷教養演習
編集・発行

遊休農地再生事業（通称「Ｕプロジェクト」）二年目へ突入！

あけましておめでとうございます。今年も地域の方々とともに、Ｕプロジェクトを活発に進めていきたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

本格的な冬を迎え、毎日厳しい寒さが続くようになりました。そんな中、遊休農地での作業は一段落していますが、現在、今年の取組みを検討しているところです。今月号では、昨年末行われた「そば収穫祭」を中心に、行政政策学類佐々木ゼミの活動などをお伝えしたいと思います。

○そば収穫祭（十二月十二日）

私たちは遊休農地で栽培したソバを収穫して地元の方の指導のもと、そば打ち体験を行いました。収穫したソバはそば粉の状態で九キロもあったそうです。また、そばを打つのに必要な道具はすべて地元の方が貸してくださいました。

そば打ち体験では、丹治昭一さんが手本として説明を交えながら実際にそばを打って見せてくださいました。私たちはその説明を聞いた後、明石高男さん、尾形武さん、尾形敬光さんにもご指導いただきながら、一人ずつ五人前のそばを打ちました。

しかし、見るのとやるのでは大違いで、そばを打っているところを見ている限りではそれほど難しそうには見えなかったのですが、実際にそばを打ってみると、いろいろと苦労したことがたくさんありました。特に私が苦労したのは、そば粉をこねる作業でとても力のいる作業である上に、たくさんこねた方がよくこしがでるので百回くらいを目安にこねてくださいと言われ、一生懸命頑張りました。また、地元の方が切ったそばはほとんど幅がそろっていてとても細くきれいだったのに、実際に切ってみるとやはり地元の方のようにそんなに上手にいくはずもなく、上手に切れたものもあれば太くなってしまったものや逆に細くなってしまったものなど、実に様々な太さのそばができてしまい、そば打ちの難しさを知りました。そば打ち体験では上手に打つことができた人もあまりうまく打てなかった人もいましたが、そば打ちという貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

そば打ちが終了した後、食事会とプロジェクトＵ代表の横山晋哉さんにより今まで遊休農地で行われた活動の報告が行われました。食事会には、私たち塩谷ゼミに加え、大黒ゼミ、西崎ゼミ、新村ゼミの各先生とゼミ生、佐々木先生、また、料理サークルのくっ倶楽部やアップルファイブのみなさんを含めた地元の方々などが参加しました。そして、自分たちで打ったそばに加え、参加したみなさんが各自で作った、おやきや巻き寿司、蒸しパンやおからドーナッツなど多くの料理が食事会で出されました。ちなみに私たち塩谷ゼミでは、アップルファイブのみなさんから頂いた焼肉のたれで味付けしたサラダを作りました。自分たちで打ったそばはゆでる際少し硬くなってしまいましたが、どの料理もとてもおいしかったです。

食事会が進む中で、横山さんからプロジェクトＵの活動報告が行われました。今年度入学した私たちが遊休農地の活動に参加したのは春からだったのですが、遊休農地での作業は春以前から行われており、その活動について改めて知ることができました。以前はすごく荒れていた遊休農地も、地元のみなさんの協力のおかげで作物が収穫できるほどの農地へと生まれ変わることができました。

食事会も終わりに近づいたころ、地元のみなさんや先生方、横山さんなどから遊休農地での活動についてお話をいただきました。その際、尾形和代さんが自分たちで作った作物の管理などをもっとしっかりするようにとおっしゃっていました。尾形さんのお話を聞き、作物の大切さを改めて感じました。

この食事会と報告会を踏まえて、今後のプロジェクトＵの活動につなげていきたいと思います。

○福大イルミネーション

福島大学では、十二月二十二日(水)にキャンパスイルミネーション2010 が点灯されました。この催しは、地域の皆様にキャンパスを開放し、大学を身近に感じ親しんでいただくとともに、学生・職員等のキャンパスライフの活性化を図るためことを目的にしています。

今年は、共生システム理工学類の八代勉教授のゼミ生を中心として製作され、デジタルコントローラー制御や新しい LED 発光パターンのコントロールなど様々な実証実験を行い、より多彩なイルミネーションを可能にしています。

イルミネーションは、土・日・祝日を含む十六時三十分～二十一時三十分まで毎日点灯され、二月末までを予定していますので、皆様どうぞキャンパスの冬の風物詩をお楽しみください。

○佐々木ゼミ活動

今月号では、私たち塩谷ゼミとともに遊休農地において農作業を行っている佐々木ゼミの普段の活動を紹介したいと思います。記事は佐々木ゼミ一年生の高橋ひかるさんに寄稿してもらいました。

私たち佐々木ゼミは一年間の活動を通して食の安全性について学んできました。今は消費者が安いものを求めすぎて、生産者は化学調味料を多量に投入したり、偽造したりする問題が起きています。そうなるまでの過程を本で読み、みんなで討論してきました。そして私たちは本を読むだけの活動にとどまりません。実際に有機農業を営む農家の畑に行ったりもしました。また、豆腐、塩、だしなどのたくさんの食べ比べもしました。最近では、安すぎる商品は避け、表示を注意深く見て購入するようになりました。

また、遊休農地の活動ですが、ミニトマト、ナス、ゴーヤ、白菜、大根などを育てました。ミニトマトにはテントウムシもどきの虫が大量発生して大変でしたが、おいしい実がたくさんなりました。また、大根は瀕死の危機でしたが、二十センチメートルほどまでに成長し、鍋の材料となりました。肥料をまったく使わないで農業をするのは口に出すことは簡単です。ですが、実際は土の状態、気候の条件がそろわないとうまくいかないのでとても大変でした。佐々木ゼミでは、このようにひとつのテーマからいろいろな知識、経験を得ることができました。

○ラブ！金谷川（第五回）

金谷川地区で活動している団体を紹介していく、「ラブ！金谷川」。第5回は「くっ倶楽部」です。今回紹介するくっ倶楽部は、福島大学の料理サークルです。十二月二十一日にくっ倶楽部の発足者である福島大学人間発達文化学類三年生の厨(くりや)優花さんにお話しを伺いました。

くっ倶楽部は今年度の五月に発足し、調理や食育の勉強を主な目的としていて、地域の人との交流も行いながら部員二十六名で活動しています。主な活動内容は基本的に火曜日に集まり簡単な料理を作ったり食育の勉強会を行うこと、月に一度外部講師を招いて料理教室を行うことなどです。また、毎週月曜日の昼休みには「お弁当の日」を設けているそうです。これは一人一品ずつおかずを持ちより、冬はたいてい調理室で、暖かい時期は外でみんなで食べようというものです。このお弁当の日は毎回違ったテーマをもとに行われているということで、とても面白みがあって魅力的な企画だと思います。三月には他大学と合同でこの「お弁当の日」を行う計画があるので是非参加して下さいとのことです。

また、くっ倶楽部は秋ごろから大学内の遊休農地での活動も行っています。きっかけとしては、もともと畑仕事がしたく顧問の中村恵子先生に伺ったところ遊休農地の話を聞き、塩谷先生に話をもちかけ畑の場所を確保できたそうです。これまでの活動は土づくりがメインで本格的な活動は春からの予定ということですが、今までには芝の植え付けやビオトープの手入れの手伝いにも参加してきました。農地に関わるようになってから地域の人や他のゼミの人との関わりができ、人脈が広がったことがプロジェクトUに関わってよかったことだと厨さんはおっしゃっていました。毎週金曜日に当番制で畑の整備や水やりを行っているそうです。

実際にくっ倶楽部の活動風景を見ることできたのですが、メンバー同士非常に仲が良く、みんな楽しみながら料理をしていました。また、その日はちようどクリスマスパーティーをやっていて、ピザやシフォンケーキ作りに参加させていただきました。丁寧に作り方を教わりながら楽しく料理することできました。

今回厨さんに話を伺って、くっ倶楽部のみなさんは本当に楽しみながら料理に取り組んでいることが伝わってきました。こういった取組から福島大学の学生を中心に「食育」に考えるきっかけになっていけばいいなと思います。厨さんをはじめ、くっ倶楽部のみなさん、今回は快く取材を受けてくださって本当にありがとうございました。

○金谷川地区をもっと知ろう！（第四回）

私たちのグループは、〈金谷川をもっと知ろう〉というテーマを基に、快適な大学生活について調べました。入学して間もなかった前回のグループ学習では、学校周辺の地理や、交通面での調査を行いました。今回は、大学生としての生活にも慣れてきたということで、自分達の生活に着目し、一人暮らし・自宅生それぞれのメリット、デメリットを徹底検証してみました。

まずは学生の過半数を占めている【一人暮らし】のメリットから挙げていきたいと思います。一番に挙げられるのが「親に縛られることがなく、自由」ということです。また、料理や洗濯など「生活力が身につく」ということも一人暮らしのメリットといえます。逆に、デメリットとしては、「お金に余裕がない」「朝起きれず授業に遅刻しがち」「ホームシックになる」などが挙げられました。

さらに、【金谷川の一人暮らし】に絞ってみると「家が近いから登下校が楽」「電車の時間に縛られない」などのメリット、「周辺に買い物できる場所が少ない」「交通費がかかる」というデメリットが挙げられています。

一方【自宅生】はというと、「家事をしなくて良いので楽」「光熱費や食費の心配がない」など、一見とても快適に学生生活を送っているように見えます。しかし、デメリットとして「根本的に自由ではない」という難点があるようです。また遠方から通っているひとは登下校の大変さを挙げていました。

結論としては、どこで誰と暮らしていたとしてもそれぞれに良い点、悪い点が付随しているため、一概にどれが快適な生活であるかは判断することが難しいということでした。これからも様々な視点から私たちの生活を見直し、調査をしていきたいです。

お知らせ

前回のかたくり第6号のラブ！金谷川において、アップルファイブのみなさんを紹介した際、尾形さんの名前が間違っていました。正しくは、尾形和代さんです。大変申し訳ございませんでした。

瓦版『かたくり』では、金谷川地区と大学との交流を進めるために、互いの行事やイベントを掲載していきたいと思います。お祭り、運動会、コンサート、講演会、サークルの活動などなんでも結構ですので、情報をお知らせいただければ幸いです。また、『かたくり』に対するご意見・ご要望もぜひお寄せください。連絡先は福島大学塩谷研究室(TEL&FAX:548-8328 MAIL:shioya@ads.fukushima-u.ac.jp)です。よろしくお願いいたします。なお、本号の編集は、塩谷教養演習一年生の岩渕俊哉・菅原明紀・鈴木元・高野美咲希が担当しました。